



# オアシス

文責：副学長  
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2019年11月19日発行 第19号

秋も深まり朝夕の冷え込みも増し、冬の訪れが間近にせまっている気配を感じるようになりました。本アカデミーにおいては後期の講座が始まり、受講生たちも新たな気持ちで取り組むとともに、多彩なプログラムを準備し充実できるようにしていきたいと思っています。

最近の教育界での話題として、大学入試に係る民間委託の問題が大きく取り上げられています。文科省が教育改革をしようとする気持ちはわからない訳でもありませんが、やり方に問題が見え隠れしているように思います。現場を熟知していない方々が主導していくことへの疑問もそうですが、民間に委託することにこだわる意図には何があるのか…。どうしても利害関係が否定できないように思ってしまうのは私だけでしょうか…。

## ◎ プロムナードコンサートが大盛況！

今回で7回目を迎えたプロムナードコンサートは、多彩なプログラム構成もあってか、9割の入場者数があり大盛況となりました。その理由はいくつか考えられますが、まずは市内の小学校音楽部の出演が大きかったことが挙げられます。全国合唱コンクール全国大会小学校部門に、本県から唯一出演された北陽小学校がゲストとして私たちのステージに駆けつけてくださったことは、観客動員につながったことと思います。当日の演奏も素晴らしく小学生とは思えない合唱力に観客の皆様も満足されたのではないのでしょうか。また、事前のメディアでの紹介も大きかったと思います。10月初旬の五嶋みどりコンサートのプレイイベントへ、本アカデミー音楽院の弦楽アンサンブルが出演し、みどりさんとの交流の様子などが、日本海TVさんのご協力で11月初旬に放映されました。そして、本アカデミーの推進委員でもある本田氏が、コンサートへ向けての練習風景を撮影してくださり、その様子がNHKのニュース番組内のビデオだよりの中で紹介されました。山陰中央新報からも事前取材を受け、情報BOX欄に掲載されたことも大きな要因になりました。

これらの広報活動や初めてのゲスト出演が影響し、大盛況へのカギとなったことには間違いなさそうです。

以下は、コンサートの様子を感想を述べながら記してみたいと思います。

◆『ウェルカム・コンサート』～出雲 Jr.フィル弦楽アンサンブルによる演奏を行いました。教科書の鑑賞教材にも用いられている、ヴィヴァルディ作曲の「四季」より“春”から1楽章を受講生の岩崎史(中1)さんによる独奏を披露いたしました。五嶋みどりコンサートのプレイイベントでも披露しましたが、若干メンバーの入れ替えがあったにもかかわらず、精度の高い演奏に観客の皆さんから大きな拍手をいただき、コンサートの成功を予知しているかのようでした。



◆『追悼演奏』～8月にご逝去された、本アカデミーの名誉教授“渡部修明”氏への追悼の意を込めて、コンサート前に「心の瞳」を関係者全員で合唱し、私たちの気持ちを捧げました。会場全体が鎮魂の場となり感動的な一時となりました。

◆『前半の部』～【ジュニアコーラス】は、小学生から高校生までの幅広い編成で、谷川俊太郎く詩>/信長貴富く曲>の混声合唱曲「かなしみはあたらしい」を朗々と歌いあげ、合唱の奥深さを会場の皆様にお届けできたことと思います。【友情出演】は、北陽小学校音楽部の皆さんによる合唱曲3曲を披露していただきました。今年のコンクール課題曲や自由曲を中心に表現豊かに歌いあげ、精度の高い児童合唱を堪能することができました。【出雲 Jr.フィル】のステージは、現代の作曲家 S.ドロブゴスによる「ミサ曲」から3曲をジュニアコーラスとジュニアオーケストラが共演し、その豊かな響きはまるで教会で聴いているような錯覚さえ覚えました。また、G.F.ヘンデルによる「ハレルヤ・コーラス」は圧巻の迫力で会場を魅了しました。

◆『後半の部』～【ジュニアオーケストラ】によるステージは、F.P.シューベルト曲の「ロザムンデ序曲」、J.シュトラウス2世曲の「ヴェルディの主題によるメロディー・カドリユ」、M.アーノルド曲の「ピータールー序曲」を、それぞれ特色ある楽曲ですが、気持ちを素早く切り替えながら見事に演奏しきりました。本アカデミーのジュニアオーケストラは、弦楽器が少なく管楽器は比較的多いのですが、芸術監督の手腕によりオーケストラの響きを表現すべくバランスを整える技術は注目に値する演奏でした。最後は、福島弘和曲の「走れメロス」をOB・OGの皆さんと初の共演で、一味違う大人の響きが加わり、安定感のあるオーケストラ演奏となりました。【合同演奏】は、ゲストの皆さんと出演者全員による、「地球星歌～笑顔のために～」を演奏し、満員のお客様を音楽の渦に巻き込み、フィナーレにふさわしく会場全体が一体となっている様子がうかがえました。【アンコール】は、恒例のJ.シュトラウス1世曲の「ラデツキー行進曲」で、会場からも手拍子が自然と沸き起こり、惜しまれながらプロムナードコンサートを終えることができました。

## ◎ OB・OG 会が発足しました！

本アカデミーが発足してから15年が経過し、講座修了生も130名となりました。そして、今年令和元年！記念すべき年にOB・OG会が発足できたことは、本アカデミーにとっても喜ばしく受け止めています。アカデミー在籍時の様々な経験を生かし巣立っていったOB・OGの皆さんは、県内外で活躍されています。その原動力となったアカデミーでの経験や現在の活躍の様子などを後輩たちにも示していただけたら励みになることと思います。今後の活動は、アカデミー事業への積極的な協力や参加を期待しているところです。協力内容は、演奏に参加することに限りません。コンサートへ聴きにきていただいたり、会場での裏方のお手伝いにも期待しています。また、OB・OG会は修了生に限りません。本アカデミーの講座を受講していた方で入会の意思のある人なら歓迎いたします。会長を中心に皆さんが盛りあがっていただけたら幸いです。近々、会則や入会案内を発送いたしますので、ふるって入会いただきますようお願いいたします。



【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】